

Course Code	5140041	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（現代行政 I）				
Faculties	前田 健太郎／羅 芝賢				
Course Objectives/Overview	<p>デジタル社会とは、どのような社会か。その一つのイメージは、あらゆるものがインターネットで連結された、国境のない世界だろう。人はアバターとなり、政府はポータルサイトを設置し、多様なサービスをワンストップで提供する。これまでの人間社会で見られたような障壁が取り払われ、物質的な制約から自由に情報が広く飛び交うのである。</p> <p>しかし、現実のデジタル社会は、そのようにはできていない。長距離の通信を支える光ファイバーの海底ケーブル、莫大な情報を蓄積するデータセンター、キャッシュレス決済のための端末など、一見するとデジタル化された社会は、相変わらず物質的な基礎の上に成り立っている。国境を越えればインターネット規制のために閲覧できないサイトがいくつもあり、UBER や NETFLIX などといった一見するとグローバル化されたプラットフォームも、実際には各国の法制度に合わせて異なるサービスを提供している。</p> <p>その意味において、デジタル社会においても、相変わらず国境はあり、政府が重要な役割を果たしている。そうだとすれば、デジタル社会は、どのように生まれ、変容し、今日に至ったのだろうか。この授業では、この発展過程を理解するのに役立つ日本語および英語文献を輪読する。</p>				

Course Code	5140060	Term	通年	Credits	4
Course Title	事例研究（現代行政 III）				
Faculties	金井 利之				
Course Objectives/Overview	<p>本演習では、現代日本の自治体行政の実態を理解することを目的とする。</p> <p>本年度も、これまでと同様に川口市を採り上げる。都市自治体にとって重要な政策領域は様々あるが、消防行政も重要な分野である。火災でも事故・急病でも、消防車や救急車が活動していることは、誰でも知っている。また、災害対策でもパンデミックでも重要な役割が想起される。しかし、消防組織は、いわゆる一般事務職を中心とする市役所とは、人的にも業務的にも地理的にも、いささか別世界であり、自治体行政の一般のイメージが通用しないことも多い。そこで、本年度は、昨年度に引き続き、消防行政を採り上げる。行政実務的には、実際に、どのようになされているのかにつき、知見を深めることとする。</p> <p>ここ15年ほど、川口市に関しては総合計画・行政管理・合併・国民健康保険・介護保険・障害福祉・生活保護・子ども行政・都市計画・税務を題材として採り上げたところであるが、その延長線上にある。</p>				

Course Code	5140076	Term	S1S2	Credits	4
Course Title	事例研究（テクノロジーアセスメント）				
Faculties	谷口 武俊／松尾 真紀子				
Course Objectives/Overview	<p>科学技術は科学的知識に関する不確実性と技術の利用形態に関する不確実性という二重の不確実性をもつ。そして、科学技術の研究開発や利用活動には多様なアクターが関わり、そこには様々な利害が生じ、複雑なリスクトレードオフ構造が形成される。科学技術の社会導入は多様な社会的含意をもつ。社会経済活動がより重層的に繋がり相互依存性を高めている社会にあつて、科学技術の研究開発・利用を巡る公共政策は極めて重要である。研究開発・利用を推し進める政策立案者や意思決定者は上述した科学技術の本質を踏まえ、技術がもたらす安全性への影響のほか、倫理的・法的・社会的含意・課題（ELSI：Ethical, Legal, Social Implications/Issues）を事前に検討し、責任ある研究イノベーション（RRI：Responsible, Research Innovation）を展開することが求められる。</p> <p>本講義では、先端科学技術に関する意思決定支援アプローチである「テクノロジーアセスメント(Technology Assessment: TA)」(技術の社会影響評価)の考え方・手法・制度を学習し、具体的な科学技術を取り上げ実践的にTAを試みることを通して、上述のような問いについて考えていく。これまで受講生が取り上げてきた技術は、ジオエンジニアリング、人工光合成などの環境・エネルギー分野、M2Mや仮想現実・拡張現実、メタバース、ウェアラブルIoTなどの情報通信技術分野、角膜再生やBMIなどの健康・医療技術分野、宇宙デブリ除去技術、宇宙新輸送システムなどの宇宙分野、自動運転技術、自動翻訳などの人工知能分野、ゲノム編集技術、培養肉、合成生物学のバイオテクノロジー分野等がある。本年度は、健康生命分野、資源・環境分野の具体的な技術を取り上げることを想定している。</p>				

Course Code	5140078	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（人工知能と社会）				
Faculties	江間 有沙／國吉 康夫／城山 英明／佐倉 統				
Course Objectives/Overview	<p>交通・エンタメ・農業・医療・金融・サービス業等、様々な領域に人工知能（AI）が導入され、私たちの生活や働き方に影響を及ぼしています。そのため、国内外で人工知能技術の開発や利活用の原則や、技術の倫理的、法的、社会的影響(Ethical, Legal and Social Implications)の議論が行われています。このような議論には多様な分野の知見が求められており、今後、情報系研究者も倫理・法・社会的知見を持つこと、政策関係者や実務家、人文・社会科学の研究者も情報技術に関する知見を持つことが必要となります。</p> <p>本授業では、「どうやったら技術を社会に受容してもらえるのか」「技術が私たちの社会をどう変えてしまうのか」という技術決定論</p>				

	<p>的あるいは受け身な態度ではなく、「どのような社会を目指し、そのために技術や人は何ができるか」といった視点から「人工知能と社会」における論点を考えます。</p> <p>本授業では国際機関や国内のマルチステークホルダーによる AI と社会に関する議論を参照しながら、今後取り組むべき課題等について、特定のテーマに関しての最終レポートをグループワークで作成します。学生には授業での質疑応答やグループワークやディスカッションに主体的に参加することが求められます。</p> <p>なお、本授業は総合文化研究科、情報学環、情報理工学系研究科、公共政策大学院の合併授業です。</p>
--	---

Course Code	5140090	Term	S1S2	Credits	4
Course Title	事例研究（外交政策 I）				
Faculties	大江 博				
Course Objectives/Overview	ウクライナ戦争、イスラエルとハマスの紛争、気候変動問題、コロナ等の感染症問題等の地球規模問題等現在の国際社会が抱える諸問題について、必要な正しい情報をえて、自分の頭で分析し、考える力を養う事を目標にする。				

Course Code	5140100	Term	A1A2	Credits	4
Course Title	事例研究（外交政策 II）				
Faculties	大江 博				
Course Objectives/Overview	国際社会は多くの深刻な問題に直面しているが、それらの問題について、多くの玉石混交の情報から正しい情報を選択し、自分の頭で考える思考力を養う事を目標にする。				

Course Code	5140165	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（デジタル社会とパブリックマネジメント）				
Faculties	青木 尚美／城山 英明／江崎 浩／座間 敏如／平本 健二				
Course Objectives/Overview	デジタル化が進む現代社会において、パブリック・マネジメント（PM）－行政・公共サービスの提供に関わる組織の運営及びガバナンス－は変革を迫られている。この授業では、チェンジ・マネジメントの観点を柱とし、様々な PM の領域で必要とされるデジタル・テクノロジーを活用した変革を理解し、その変革をもたらすための施策を考察することを目的とする。授業では毎回、専門家による講義とディスカッションを交えながら、① 何が必要とされている変革で、②変革を後押ししている要因、③変革の障害となっている要因を多角的に特定し、変革を達成し、定着化させる施策を考察する。参加者は PM とデジタル・テクノロジーが交差する領域で関心を持				

	つテーマについて、チェンジ・マネジメントの視点からレポートをまとめ発表することが求められる。
--	--

Course Code	5140206	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（公共経済政策：解決策分析）				
Faculties	小川 光／深澤 映司				
Course Objectives/Overview	<p>官公庁やシンクタンクなどで経済分野の政策分析業務に従事することを希望する受講者を対象として、そのような職場でクライアントからの調査依頼に対して文書による回答を行う際に有用な知識や技能を習得してもらうことを目的とする。</p> <p>この目的を達成するため、受講者には、依頼者（外部の実務家）から示された財政・税制に関連した課題について調査・分析を行い、その結果を報告書にとりまとめた上で、依頼者に対して報告するという一連のプロセスを、各グループまたは各人ごとに経験してもらう。</p>				

Course Code	5140217	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（政治とマスメディア I）				
Faculties	谷口 将紀／佐藤 武嗣				
Course Objectives/Overview	<p>政党政治の最前線に接し、現在の日本政治を考察すると同時に、ジャーナリズムのあり方について考える。</p> <p>1994年の政治制度改革から30年、小選挙区比例代表並立制の導入や政治資金規正法を柱に、政権交代ができる緊張ある政治の実現をめざした取り組みは、その理想とは遠い現実に直面する。近年は国政選挙の投票率の低迷が著しく、「自民1強」体制が半ば固定化する。金権政治の根絶をめざしたはずが、「政治とカネ」の問題は絶えず、政界は自民党派閥の裏金問題に大きく揺れる。首相官邸に権限を集中する「政治主導」創出の試みは、副作用として霞が関の官僚の萎縮を招き、行政の公平性・公正性のゆがみも明るみになる。時代や社会の要請に応じた政策の導入もなかなか進まない。女性の国会議員の割合は、先進国のなかで群を抜く低さだ。立法府の行政監視機能は十分に発揮されず、野党は相互批判と分裂を繰り返し、政権交代の受け皿となり得ていない。</p> <p>2024年は自民党の総裁選や、立憲民主党の党首選が予定され、衆院解散・総選挙がある可能性も高い。情勢が大きく動くなかで、国民は政治にどう向き合えばよいのか。政治家やジャーナリストらをゲストに招き、意見交換を通じて日本政治の現在地と、今後の可能性を探る。</p>				

Course Code	5140218	Term	A1A2	Credits	2
-------------	---------	------	------	---------	---

Course Title	事例研究（政治とマスメディア II）				
Faculties	谷口 将紀／藤田 直央				
Course Objectives/Overview	<p>授業担当者（藤田）が企画記事や連載記事で取り上げてきた文書を学生たちと読みながら、戦後日本の外交・安全保障をめぐる主な出来事を掘り下げ、今日の問題を考える土台を培う。対象の文書は以下を想定。政府が秘密指定を解いた外交文書、首相経験者らの遺品である公的な私文書、様々なアーカイブなど。</p>				

Course Code	5140280	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（財政政策 I）				
Faculties	岩本 康志				
Course Objectives/Overview	<p>財政政策、税制、財政運営に関係する事例研究をおこなう。問題の設定、基本的な事実に関してのリサーチをおこない、解決策を探る。</p> <p>この授業の目的は、COVID-19 対策を事例として、科学的根拠に基づく政策形成の課題を検討することである。具体的な論点として、数理モデルの社会現象への適用の長所と短所、科学的知見が変化するときの政策運営、社会的価値観の相違がある場合の合意形成、緊急事態法制への含意、等がある。</p> <p>受講者は、担当教員による論点の素材を出発点にして、提示された論点、あるいは自身が気づいた論点を展開して、必要に応じてデータ分析をおこないながら、自身の考察をまとめる。</p> <p>以上の活動を通して、受講生は科学的根拠を必要とする政策を企画する能力の涵養を目指す。</p>				

Course Code	5140286	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (International Intellectual Property Management)				
Faculties	WATANABE Toshiya				
Course Objectives/Overview	<p>The "International IPR Management" course covers the fundamental aspects of intellectual property from Innovation and business perspective. Course of this year especially focus on IP management from startup business, and developing countries perspective as well. Both of situation face problems of little management resources. How we create IP and competitiveness for little management resources is topic of this year.</p> <p>The course is organized by combining series of lectures and workshops by guest speakers ,group work sessions and case study sessions for better understanding the IPR management through real issues in business scene. In order to facilitate effective interactive process in "case based teaching". This class will be organized as face to face, hybrids & online class.</p>				

Course Code	5140298	Term	S1S2	Credits	2
-------------	---------	------	------	---------	---

Course Title	Case Study (Japanese Macroeconomic Policy: Solutions to Monetary and Fiscal Policy Challenges)
Faculties	HAYASHI Tomoko
Course Objectives/Overview	This course will provide sound basis for research on the Japanese macroeconomic policy (both monetary policy and fiscal policy), with reference to other countries, from the viewpoint of the policy practitioner. It will cover a wide range of background knowledge from policy framework in theory and practice, economic assessment and data analysis to the current policy settings.

Course Code	5140299	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（日本のマクロデータによる政策分析）				
Faculties	林 伴子				
Course Objectives/Overview	<p>経済分析に多く使われるマクロ経済データについて、その概要と取扱いの仕方、分析の際の留意点等について学び、日本や海外の経済分析、政策議論に必要なデータに関する実践的な知見を深める。</p> <p>政府・中央銀行や民間シンクタンクのエコノミスト、大学の研究者が経済分析を進める上で必須となる、データに関する基礎知識を身につけ、自ら読み解き、情報発信できるようになることが到達目標である。こうした能力は、エコノミスト、研究者を目指す者のみならず、政府等でしっかりした裏付けのある政策の企画・立案に携わりたい者や、企業の経営企画・コンサルタント業務、ジャーナリズムで活躍することをを目指す者にも非常に重要になっており、この授業ではそのための有益な基礎を提供する。</p>				

Course Code	5140301	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（医療政策・問題分析）				
Faculties	飯塚 敏晃				
Course Objectives/Overview	<p>日本の医療や医療政策が直面する課題について、マイクロデータを用いた事例研究を行い、課題解決に向けた分析レポートをまとめる。</p> <p>夏学期は研究課題の設定、基本的な事実に関するのりサーチを行う。</p>				

Course Code	5140310	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（財政政策Ⅱ）				
Faculties	岩本 康志				
Course Objectives/Overview	<p>財政政策、税制、財政運営に関係する事例研究をおこなう。問題の設定、基本的な事実に関するのりサーチをおこない、解決策を探る。</p> <p>この授業では、受講生が関心のある個別政策を選択して、①EBPM（根拠に基づく政策立案）の観点から、実施あるいは計画されている政</p>				

	<p>策を検討すること、②EBPM に沿った政策立案が行われているか否かどうかを検討すること、を行う。</p> <p>その際、国立国会図書館調査及び立法考査局総合調査報告書『EBPM（証拠に基づく政策形成）の取組と課題』（2020年）「第Ⅱ部 EBPMの観点からの個別事例分析」の手法にならい、原則として以下の6つの評価の視点を用いる。「政策目的は適切に設定されているか」「政策は適切に体系化されているか」「アウトカム指標は適切に選択されているか」「アウトカム目標の水準は適切に設定されているか」「政策効果に関する適切なエビデンスが示されているか」「アウトカムの実績への政策の貢献は適切に検証されているか」。これらの視点からの評価に加えて、政策自体の課題も分析対象となる。</p>
--	--

Course Code	5140331	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（医療政策・解決策分析）				
Faculties	飯塚 敏晃				
Course Objectives/Overview	日本の医療や医療政策が直面する課題について、マイクロデータを用いた事例研究を行い、課題解決に向けた分析レポートをまとめる。				

Course Code	5140394-1	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（インフレーションと金融政策）				
Faculties	渡辺 努				
Course Objectives/Overview	物価の不安定化を回避するための経済制度や経済政策について理解を深めることが目標である。授業の前半では、インフレやデフレなどのマクロの物価変動が起こる仕組みについて、最近のものも含め、主要な研究成果を紹介する。授業の後半では、その知識をもとに、ハイパーインフレや大恐慌期のデフレーション、ゼロ金利下の日本の緩やかな物価下落などを題材として、物価不安定化の原因とそれに対する中央銀行や政府の対応の適否について討議する。				

Course Code	5140395	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（資本市場と公共政策）				
Faculties	有吉 尚哉／守屋 貴之				
Course Objectives/Overview	<p>この授業では、金融資本市場をめぐる具体的な政策課題をテーマに取り上げ、その課題に最前線で向き合う官民の幅広い関係者（ゲスト講師）による講義と質疑応答を通じて、学生が課題を様々な角度から分析し、本質を捉えた実効的な対応策を考える力を養うことを目指す。</p> <p>最近の金融資本市場をめぐる政策課題は、例えば資産運用業の高度化、スタートアップなどへの成長資金の供給、コーポレートガバ</p>				

	<p>ナンス改革の実質化、サステナブルファイナンスの推進、フィンテックの台頭を含むデジタル化への対応とイノベーションの促進、顧客本位の業務運営の徹底、金融経済教育の充実など多岐にわたるが、2024年度のテーマは9月上旬頃を目途に決定し、本シラバスを更新予定である。なお、2023年度は「国民の安定的な資産形成の実現に向けた課題」をテーマとした。</p> <p>(注) この授業は、公共政策大学院・法学政治学研究科法曹養成専攻(法科大学院)・同研究科総合法政専攻の合併開講科目であり、みずほ証券株式会社の寄付講座である。</p>
--	---

Course Code	5140396	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究 (金融制度の課題と対応)				
Faculties	守屋 貴之				
Course Objectives/Overview	<p>金融資本市場をめぐる具体的な政策課題を題材とし、関連する文献や審議会などの有識者会議における議論などを参考に、政策対応の背景・経緯などについて、受講者が調査・報告を行い、最終的には受講者自らが実施すべきと考える対応策の提言を含むレポートを作成する。</p> <p>具体的な政策課題の候補は、担当教員がこれまでの行政経験を踏まえて複数示す予定であるが、金融資本市場をめぐる課題であれば、担当教員とあらかじめ相談のうえ、受講者が自らの関心に応じた課題を選定してもよい。</p> <p>この授業では、将来、政策当局、官民の金融機関、シンクタンク、コンサルティングファームなどで金融関係の実務に携わることを考えている学生をはじめ、金融分野に関心がある学生を念頭に、各自が選定した個別の政策課題に関し、過去の経緯や考慮すべき事項などを考察しつつ、現実的かつ実効的な対応策を自ら企画立案する実践力を養うことを目指す。</p> <p>(注) この授業は、みずほ証券株式会社の寄附講座の一環である。</p>				

Course Code	5140397-1	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究 (信託法に関する実務上の諸問題)				
Faculties	水野 大				
Course Objectives/Overview	<p>担当教員は、信託関連法令あるいは信託銀行の業務に関する案件を専門分野の一つとする弁護士である。</p> <p>https://www.noandt.com/lawyers/ohki_mizuno/</p> <p>担当教員から、実際に取り扱った案件や法律問題を紹介しつつ、信託法の概説やベーシックな信託契約の読み方の説明を行った上で、各参加者が自ら選択したテーマについて発表し、その発表に基づいて担当教員や参加者が議論を行うことを予定している。信託法の概説やベーシックな信託契約の説明をする際、民法(及び会社法)のルール等が前提知識になるが、毎年学部3年生4年生が参加してお</p>				

	<p>り、カリキュラム上、そのような前提知識を有することを当然の前提にすることはできず、また、経験上、関連する民法（及び会社法）のルール等をていねいに説明する方が演習が活発になるので、そのようなルール等の説明を省略することはしない。</p> <p>参加者が、実定法としての信託法の内容、信託関連法令に関する基本的な知識を身につけると同時に、実務で生じるような問題を法的に分析することへの興味・関心・野心を抱くに至ることが、この演習の目的である。</p> <p>民法、会社法のような実定法の勉強の延長で実定法としての信託法を勉強したいという学生あるいは信託を用いた金融実務に興味のある学生の参加を想定している。</p> <p>実務家教員（弁護士）による演習であることに関連して万が一にでも誤解のないように申し添えておくと、（横文字や「最先端」というような語を交えつつ）単なる「実務ではこうなってます」式の説明をするつもりはなく、少なくとも主観的には、一弁護士・一法学徒が法令の条文、判例/裁判例、学説などを踏まえ何をどのように考えて仕事をしているのかを垣間見せることを意図している。</p>
--	--

Course Code	5140398	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (Macroeconomic and Financial Policies I)				
Faculties	UEDA Kenichi / HATTORI Takahiro				
Course Objectives/Overview	<p>Become capable of reading and writing theoretical and empirical analyses on current global economic issues at the level often discussed among international policy experts.</p> <ul style="list-style-type: none"> • To build the capacity to understand policy issues on current macroeconomic and financial issues in the world. • To be familiar with major theoretical arguments and empirical methods. • To improve policy discussion skills: <ul style="list-style-type: none"> oPresenting (advertising/defending) oServing as discussant (praising/criticizing) oOpen-floor discussions (involving others) 				

Course Code	5140412	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case study (Leadership and management at International Financial Institutions)				
Faculties	KAWAI Yoshihiro				
Course Objectives/Overview	<p>This seminar-format course is designed to acquire skill to create and lead an international organisation. The course is based on discussion, role plays and presentations. Students taking this course for credits must attend all lectures, participate actively in classroom discussion, present a draft term paper on topics related to the course, and submit the final version of the term paper.</p>				

Course Code	5140414	Term	S1S2	Credits	2
-------------	---------	------	------	---------	---

Course Title	事例研究（企業の技術戦略と国際公共政策）
Faculties	中川 淳司／米谷 三以
Course Objectives/Overview	<p>本事例研究は、企業が経営戦略・技術戦略として公共政策形成に関わるか、とくに国際ルールの形成にどのように関わり、国際ルールをどのように利用しているか、の実務を学ぶことを狙いとする。今日、公共政策にどう関わるか等の対政府渉外活動、あるいは、いわゆる「非市場戦略」の企業にとっての重要性が高まっているのみならず、技術開発・海外投資等の経営戦略との複合的な考慮が必要となっている。脱炭素・プラスチックごみ対策など公共政策の変化が技術革新を要求し、標準化の巧拙が技術競争の重要な要素になってきていることはその現れである。また関税や投資規制・保護等のルールは、サプライチェーンの構築に大きく影響する。国際ルールの比重が高まり、かつ国際ルール形成における企業・NGOなど非政府機関の関与する機会が増加している今日においては、国際ルール形成に関わる企業戦略の巧拙が業績に大きく影響する。同時に、Brexitに見られるように、国家の規制主権を取り戻そうとする動きもあり、対象の動きは複雑化している。</p> <p>こうした活動を立案・実施するためには、法と政策に関わる知見に加え、技術に関する知見も必要であり、総合的な専門性が必要とされるが、必要な専門能力・経験を備えた人材は不足している。この現状に鑑み、企業が国際公共政策に関わるとはどういうことか、とくに、技術戦略にどのような影響があるか、どのような関わり方によって目的を実現できるか、とくに、技術的なソリューションをどのように組み合わせるか、そのために必要な能力・知見は何か等について、企業活動の最前線でルールの立案・交渉・実施にあたっている実務家の経験と知見を学び、実務につなげる。経済活動に対する国際ルールの規律の現状とその底流となる政策論の方向性、国際ルールの形成と実施のための手続の実際、かかる手続における政府、企業、NGO等のステークホルダーの関与等について、個別の事例の検討を通じて考察を深め、さらに今日的な課題にいかに関わり組むかについて実践的な議論を行い、実務において直面する問題に対する解決能力を高めることをねらいとする。</p>

Course Code	5140415	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（国際経済ルールの形成と利用）				
Faculties	中川 淳司／米谷 三以				
Course Objectives/Overview	<p>本授業は、政府がその政策目標を実現するために国際公共政策形成に如何に関わるか、とりわけ、国際ルール・取組に如何に関わり、具体的には、ルール形成や遵守確保に如何に関わるかを研究することを狙いとする。経済・社会のグローバル化・世界的統合が進み、通商・投資協定、環境条約、BEPSなどの協力・ハーモニゼーションの枠組、国際規格その他の国際ルールが、国内法・政策の形成に大きく影響する今日、かかる国際ルール・取組に受動的に対応するの</p>				

でなく、国際公共政策の構想を立て、積極的に国際ルール形成のイニシアティブを執り、使いこなす重要性が、政府、法律事務所、企業等において認識されてきている。さらに、近年は逆の方向（Brexit・保護主義等）の動きもあり、ルール形成の在り方は一層複雑化している。しかし、必要な専門能力・経験を備えた人材は不足している。この現状に鑑み、国際経済ルールを如何に策定し利用するか、そのために必要な能力・知見は何か等について、政府等の最前線でルールの立案・交渉・実施にあたっている実務家の経験と知見を学び、実務につなげる。経済活動に対する国際ルールの規律の現状とその底流となる政策論の方向性、国際ルールの形成と実施のための手続の実際、かかる手続における政府、企業、NGO等のステークホルダーの関与等について、個別の事例の検討を通じて考察を深め、さらに今日的な課題にいかに取り組みかについて実践的な議論を行い、実務において直面する問題に対する解決能力を高めることをねらいとする。

Course Code	5140418	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（国際経済関係の法と政策）				
Faculties	米谷 三以				
Course Objectives/Overview	<p>本授業は、緊張関係の高まる国際経済関係を健全に発展させる国際ルール及びレジームを形成するために有用な法的・政策的パースペクティブを得ることを狙いとして、経済安全保障、国有企業問題、デジタル貿易と個人情報保護など、今日の様々な国際経済関係上の諸問題における議論の現状を把握し、問題の構造を分析することを通じて、新たな視点の可能性の探究を試みる。今日の国際経済関係においては、貿易・投資の自由化により経済の相互依存が深化し、また地球温暖化、感染症の蔓延などの対策として国際的な協力関係が構築されるなど求心力が働いている。環境保護・人権保護など他国の国内政策に対する関心も高まっている。ただ同時に、重要資機材の国内生産確保を含む経済安全保障の主張、主権の強調など、遠心力の増大も観察される。インフラのセキュリティ確保、PPEの供給確保、emerging technologyの国際移転管理などの動きは、貿易自由化、外資・外国人研究者の受け入れなどに疑問を投げかけている。これら対立する二つの力に加え、米中対立の根底にある体制の違い、ロシアのウクライナ侵攻に対する経済制裁、グローバルサウスの台頭、その他関係する複数の政策間の不整合などが問題を複雑化している。これらの問題について具体的案件の現状・構造を研究することによって、国際公益として認識されつつある「持続可能な発展」概念を基礎として、こうした不整合を解決する視点を探り、様々な政策分野において存在している国際レジーム・国際協定の発展方向を考えるパースペクティブを考える基礎を探究する。</p>				

Course Code	5140485	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（政策環境・事業環境検討手法としてのシナリオプランニング：理論と実践）				
Faculties	杉野 綾子				
Course Objectives/Overview	<p>人生は決断の連続である。</p> <p>これから職業人生を歩んでいく過程でも、皆さんは日々、大小様々な決断を迫られるが、それらは間接的に、組織の業績や評判や、存立を左右するような重大な決断に結び付く場合が多い。</p> <p>他方で将来のことは誰もわからない。つまり企業でも官公庁でも、今後どのような外部環境に置かれるのか、自らの行動の帰結と、それに対する反応について不確実な状況下で、重大な判断を下さなければならない。</p> <p>シナリオプランニングは、不確実な状況下で、組織が、丹念な情報収集・分析と活発なブレインストーミングを通じて、より良い決定を下すための方法論である。</p> <p>この授業はシナリオプランニング技法を、実際にシナリオを作りながら学んでゆく。授業の目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シナリオプランニングの理論と型式を理解する、 ②シナリオプランニング手法が政策環境分析あるいはビジネス環境分析に活用可能なことを理解する、 ③シナリオプランニングの作業工程を実習する、 ④チームワークの作り方を体験的に実習する、 ⑤チーム作業でシナリオ作品を試作する。 <p>このため、全回出席をお願いしたいし、グループワークに貢献し、宿題をこなしながら徐々に力をつけてもらいたい。</p>				

Course Code	5140486	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Case Study (Business Environment, Stakeholders and Issues; a Learning Experience in Collaboration with Japanese Industry)				
Faculties	KUMON Takashi				
Course Objectives/Overview	<p>The objectives of this course are to give course attendants hands-on experiences of business modus operandi of Japanese companies, and to ask the attendants to follow small scale researches on particular themes on Japanese companies/industries.</p> <p>This course was established in 2015 in response to the call from GraSPP international students for more to learn and be exposed to the Japanese business society.</p> <p>The ultimate aim of the course is to offer the attendants an opportunity to learn business culture and operation of globalized, or globalizing Japanese companies. Hence, the attendants are very much deserved to be critical and argumentative however; the organizer of the course would like to ask them for due respects to the companies.</p> <p>The organizer of the course has a variety of experience in business and governmental organization to support overseas business of Japanese companies. However; the attendants will not expect the organizer to do full lectures on theories</p>				

	and methods of business practices, which can be learned by reading boring books for MBA courses, plenty of them. This is a very practical course, rare in the university. The attendants will expect hard work!
--	---

Course Code	5140488	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Case Study (Public-Private Partnerships)				
Faculties	NISHIZAWA / SEETHARAM				
Course Objectives/Overview	<p>This course gives students an opportunity to produce a consulting report for the client in the field of public services provision—such as economic, social, and institutional infrastructures—essential to the smooth functioning of society and people’s well-being. It aims to deepen students’ understanding of Public-Private Partnerships (PPPs) as a public service provision framework.</p> <p>Students must work in teams under the instructor’s guidance as a practical training course with an active learning approach. The client reviews and receives the deliverables as if the students run a real-world consultancy project. The course also serves as hands-on training for professional writing and communication.</p> <p>The external clients are the Asian Development Bank’s Office of Public-Private Partnership, GR Japan, and Japan International Cooperation Agency’s Private Sector Partnership and Finance Department.</p>				

Course Code	5140498	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (Institutions and Methods of Health Technology Assessment in Healthcare Policy)				
Faculties	KAMAE Isao				
Course Objectives/Overview	<ul style="list-style-type: none"> • Students learn about Health Technology Assessment (HTA) institutions in the world and develop the HTA literacy with global standards, which is required for public policy-making and business in healthcare. • A group of two or three students is asked to perform a short presentation regarding one HTA institution assigned in advance (for example, NICE in the UK), and the presentation is followed by class discussions. • International HTA experts in Asia, the US or Europe are invited in several classes to give their lectures online or in-person. 				

Course Code	5140500	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（海洋問題演習 Va）				
Faculties	木村 伸吾 / 山口 健介 / 平林 紳一郎				
Course Objectives/Overview	<p>この授業は、学問分野横断的な思考の獲得および政策立案・問題解決能力を涵養することを目指し、海洋に関わるさまざまな政策課題への総合的なアプローチについて、具体的課題に即して学ぶことを目的とする実践的な科目である。</p> <p>この授業は、A セメスターに開講される海洋問題演習 Vb と内容的</p>				

	<p>に一連のものとして設定されるが、それぞれ独立して履修することも可能である。</p> <p>この授業においては、海洋に関わる政策的なトピックについて、場の利用、資源の利用、安全な利用といった観点から、沿岸域総合管理、生物多様性、津波・防災、海洋安全保障、海洋ゴミ・プラスチック問題、海洋再生可能エネルギー利用、水産物感染症対策、食料安全保障等各分野の専門家、実務家等を招いて講義を行う。専門分野の違いを超え、問題解決に必要な知見を総合して、政策案を企画する基礎を学ぶことを目指す。</p> <p>この授業は、大学院横断型教育プログラムの一つである「海洋学際教育プログラム」の必修科目である。</p> <p>This is a practical course that aims to acquire interdisciplinary thinking and cultivate policy-making and problem-solving skills, and to learn about comprehensive approaches to various policy issues related to the oceans in the context of specific problems. This course is a required course for the Interdisciplinary Education Program on Ocean Science and Policy.</p>
--	---

Course Code	5140501	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（海洋問題演習 Vb）				
Faculties	木村 伸吾／山口 健介／平林 紳一郎				
Course Objectives/Overview	<p>この授業は、学問分野横断的な思考の獲得および政策立案・問題解決能力を涵養することを目指し、海洋に関わるさまざまな政策課題への総合的なアプローチについて、具体的課題に即して学ぶことを目的とする実践的な科目である。</p> <p>この授業は、S セメスターに開講される海洋問題演習 Va と内容的に一連のものとして設定されるが、それぞれ独立して履修することも可能である。</p> <p>この授業においては、様々な研究科に所属する大学院生からなるグループを編成し、専門分野の違いを超えて海洋に関わる政策的なトピックについて共同研究を行い、問題解決に必要な知見を総合して政策案の企画に取り組む。</p> <p>この授業は、大学院横断型教育プログラムの一つである「海洋学際教育プログラム」の必修科目である。</p>				

Course Code	5140600	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（科学技術イノベーション政策研究）				
Faculties	松尾／木見田／柴山				
Course Objectives/Overview	<p>[THIS COURSE IS OFFERED IN BOTH JAPANESE AND ENGLISH]</p> <p>科学技術イノベーション政策について、官公庁や調査研究機関等において政策形成やそのために必要なエビデンスの構築に携わる知識を学び、科学技術イノベーション政策を研究する際に重要な論点を俯瞰する。</p>				

	<p>加えて、これらを実践知とするため、科学技術イノベーション政策について、政策プロセス・制度またはエビデンス構築を対象に、グループワークを中心とした事例研究を行う。各学生には、個別の専門領域に閉じることなく、文理融合・学術分野横断的な協働を通じて問題解決を図り、政策を企画立案分析する素養の体得を期待する。</p> <p>----</p> <p>This course is designed to develop necessary skills for collecting and analyzing evidence for public policy-making at government agencies and research institutions, as well as to overview basic issues on science, technology, and innovation (STI) policy research. Students are encouraged to learn across academic disciplines; they are expected to work with other students from different departments/schools toward problem-solving and develop necessary skills for dealing with public issues and planning/evaluating public policy.</p>
--	---

Course Code	5140610	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（科学技術と政治・行政Ⅰ）				
Faculty	城山 英明				
Course Objectives/Overview	<p>科学技術の研究開発、科学技術の実社会の各分野での利用に際して必要になるリスク規制やイノベーション・社会のトランジションの促進は社会の政治組織、行政組織、企業、社会集団、専門家、市民様々な主体の利益や価値に関わり、これらの課題をめぐっては諸主体間での政治が展開される。科学技術に関する判断は、しばしば科学的技術的に規定されていると認識されることも多いが、実際には多くのトレードオフや不確実性等に関する判断が埋め込まれており、一定の政治性を伴い得る裁量が埋め込まれている。また、科学技術に関わる政治・行政においては、各主体が科学技術に関する能力をどのように確保するのか、各主体が能力確保に投資するインセンティブ構造が確保されているのかというのも、重要な局面となる。</p> <p>本演習では、まず、このような科学技術と政治・行政における基本的論点について、文献講読に基づき、議論を行う。具体的には、科学技術自体の性格と科学技術政策の基本的ダイナミズムについて検討した後、各応用分野との相互作用が重要になる技術の多面的評価・管理やトランスフォーメーション志向型の科学技術イノベーション政策、トランジション、国際レベルにおける健康・環境リスク規制（安全保障に関するリスクも含む）に関するガバナンスについての議論（気候変動と生物多様性保全への同時対応を志向する nature positive 論、環境対応と健康対応を一体化してとらえる one health 論等）を検討する。</p>				

Course Code	5140700-2	Term	A1A2	Credits	2
-------------	-----------	------	------	---------	---

Course Title	Case Study (International Energy Governance)
Faculties	ARIMA Jun
Course Objectives/Overview	Explore the roles of the selected energy related international organizations/processes to enhance secure, affordable and sustainable energy supply. The examples of these organs/processes are IEA, OPEC, IEF, Energy Charter, G7, G20, EU, APEC, ASEAN, IAEA IRENA, UNFCCC etc. Discuss the selected energy issues from different perspectives. Try to identify necessary conditions for global energy governance in the 21st Century to address energy and climate challenges

Course Code	5140715	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（コーポレートガバナンス）				
Faculties	鈴木 寛／林 良造／中原 裕彦／萬澤 陽子				
Course Objectives/Overview	我が国のコーポレートガバナンス改革により企業の経営環境は大きく変化してきた。近年、コーポレートガバナンスが問題となる事例が数多く見られ、また、日本の制度に伴うバイアスについての研究も進んできている。そして、こうした事例に対応する形で、新たなガバナンスの方式が模索・提案されたりもしてきた。 この授業では、これまでの政策の変遷を踏まえ、現段階での世界の最新の論調を踏まえて事例を見直し、それはどのような原因・メカニズムで発生するのか、そしてそうした問題は今後どのようにすれば改善することができるのか、コーポレートガバナンス制度の評価という視点から検討を行っていく。				

Course Code	5140723	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (Impact Investing Trends in Asia)				
Faculties	NISHIZAWA Toshiro／YAMABE Kotaro				
Course Objectives/Overview	This course gives students an opportunity to produce a consulting report for the client, Asuene Inc. or Music Securities, Inc. (MS), in the field of impact investing—an innovative approach to pursuing positive social and environmental outcomes that improve people’s well-being while seeking financial returns. Students must work in teams under the instructor’s guidance as a practical training course with an active learning approach. The client reviews and receives the deliverables as if the students run a real-world consultancy project. The course also serves as hands-on training for professional writing and communication.				

Course Code	5140735	Term	A 2	Credits	2
Course Title	Case Study (GraSPP Policy Challenge: Global Innovative Public Policy Solutions)				
Faculties	SUZUKI/YOSHIKAWA/ARIMA/ORSI/MATSUP/HANAI				

Course Objectives/Overview	<p>GraSPP Policy Challenge (GPC) offers the unique opportunity to students from diverse background to collaborate and seek to improve their teambuilding and policy-making skills. Participants are tasked with responding to pressing the real-world policy challenges as a group, and with designing policies and proposals in response to those challenges.</p> <p>All students from GraSPP/STIG are strongly encouraged to apply. Selected groups will be ultimately invited to present at the GPPN Annual Conference 2025 which will take place in New York (TBC), hosted by SIPA-Columbia University (TBC).</p> <p>**The Challenge**</p> <p>We are inviting students to identify an important policy challenge in any public policy field and in any regional, international or national context. Students should form teams between 3 and 5 members and work together to develop their proposals. Each school of the GPPN will send up to 15/20 students in total (the precise number will be determined at a later stage).</p> <p>We are looking for student presentations on public policy proposals that:</p> <ul style="list-style-type: none"> •Identify an important and pressing public policy problem; •Present a convincing and innovative solution and demonstrate why this proposal is appropriate to solve the policy problem identified; •Explain how the solution shall be implemented and what implementation challenges will need to be overcome, taking into account available knowledge and the context in which the policy challenge occurs. <p>The proposal should be concise but clearly argued and based on evidence from practice and/or research.</p>
----------------------------	--

Course Code	5140741	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (Project Based Learning on Technological Innovation and Social Solutions)				
Faculties	AOKI / SHIROYAMA / SUZUKI / ISOZUMI				
Course Objectives/Overview	In this course, students from multidisciplinary backgrounds collaboratively develop innovative, tech-driven solutions to complex societal problems. The course provides opportunities for students to interact with expert clients who present them with a problem or challenge that needs to be addressed and to practice working effectively in a multidisciplinary team. Students are asked to make hard choices to produce a thoughtful solution, which requires careful problem identification and the assessment of alternative options.				

Course Code	5140743	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Case Study (Social Design and Management)				
Faculties	ORSI etc.				
Course Objectives/Overview	In this seminar, students are expected to examine research in various fields such as resources, environment and energy, health and medicine, space and ocean, security, global economy, food and life, AI and digitalization, and learning and communication in relation to various social issues, and attempt to design solutions (technical and institutional solutions) to social issues in concrete ways. In doing so, students will consciously consider what other fields of knowledge are necessary in addition to the knowledge in their own field of expertise, and students will attempt to compare various solution options. Students will also examine the challenges of				

	implementing such solutions in society.
--	---

Course Code	5140745	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Case Study (CAMPUS Asia Joint Course: Public Policy in East Asia and Japan I)				
Faculties	HATTORI Takahiro				
Course Objectives/Overview	<p>The purpose of this course is to deepen understanding of East Asian political, economic, and social issues through multidisciplinary analysis. This course is designed for students participating in the Campus Asia program, but if you like to have a relationship with international students from East Asia, please register for this class.</p> <p>本稿義は、キャンパスアジアプログラムのための講義になります。もっとも、キャンパスアジアプログラムに所属しない学生の参加も歓迎しています。特に、本稿義を通じて、北京大学やソウル大学、シンガポール国立大学の学生との交流を図ることが可能であり、アジアの学生との接点を作りたい学生を歓迎します。</p>				

Course Code	5140746	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (CAMPUS Asia Joint Course: Public Policy in East Asia and Japan II)				
Faculties	HATTORI Takahiro				
Course Objectives/Overview	<p>The purpose of this course is to deepen understanding of East Asian political, economic, and social issues through multidisciplinary analysis. This course is designed for students participating in the Campus Asia program, but if you like to have a relationship with international students from East Asia, please register for this class.</p> <p>本稿義は、キャンパスアジアプログラムのための講義になります。もっとも、キャンパスアジアプログラムに所属しない学生の参加も歓迎しています。特に、本稿義を通じて、北京大学やソウル大学、シンガポール国立大学の学生との交流を図ることが可能であり、アジアの学生との接点を作りたい学生を歓迎します。</p>				

Course Code	5140751	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（中央省庁における政策立案 I）				
Faculties	鈴木 寛				
Course Objectives/Overview	<p>国家公務員・地方公務員または、それらの公務員とともにプロジェクトを行うものとして必要な、具体的な政策案を作成する能力を身に着ける。</p> <p>特に、各省庁の審議会の事務局として、審議会答申を策定する能力を身に着ける。</p>				

Course Code	5140752	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	事例研究（中央省庁における政策立案 II）				
Faculties	鈴木 寛				
Course Objectives/Overview	<p>国家公務員・地方公務員または、それらの公務員とともにプロジェクトを行うものとして必要な、具体的な政策案を作成する能力を身に着ける。</p> <p>特に、各省庁の審議会の事務局として、審議会答申を策定する能力を身に着ける。</p>				

Course Code	5140771	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Case Study (Macroeconomic and Financial Policies II)				
Faculties	NAKATA Taisuke / UEDA Kenichi				
Course Objectives/Overview	<p>Become capable of reading and writing theoretical and empirical analyses on current global economic issues at the level often discussed among international policy experts.</p> <ul style="list-style-type: none"> • To build the capacity to understand policy issues on current macroeconomic and financial issues in the world. • To be familiar with major theoretical arguments and empirical methods. • To improve policy discussion skills: <ul style="list-style-type: none"> oPresenting (advertising/defending) oServing as discussant (praising/criticizing) oOpen-floor discussions (involving others) 				

Course Code	5140790-1	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	Case Study (Development Economics and Policy I)				
Faculties	TAKASAKI Yoshito				
Course Objectives/Overview	<p>In this course (DEP1), we see what major insights have recently emerged from development economics (e.g., RCT) and how they matter for development policy. Students are expected (1) to acquire basic knowledge and skills to read and discuss research and policy papers in development economics; (2) to develop a research proposal on development; and (3) to develop presentation, discussion, and research writing skills. The course consists of a review of program evaluation methods with a strong practical focus and students' presentation and discussion about published research work and their own research proposal. Both experimental and quasi-experimental studies are covered. All discussions and presentations are conducted in English and all written assignments must be written in English (no exceptions).</p>				

Course Code	5140791-1	Term	A1A2	Credits	2
Course Title	Case Study (Development Economics and Policy II)				

Faculties	TAKASAKI Yoshito
Course Objectives/Overview	The objective of this course (DEP2) is to (1) to develop a research project on development; (2) to acquire skills to analyze micro data; and (3) to develop presentation, discussion, and research writing skills.

Course Code	5140800	Term	S1S2	Credits	2
Course Title	事例研究（日本の未来と個人の役割）				
Faculties	宗像 直子／西田 亮介／島田 和久				
Course Objectives/Overview	<p>日本は内外環境の激変に直面している。新しい環境への適応が遅れ、国富を生み出す力が翳っていけば、自国の安全を維持できなくなるリスクが大きくなる。個人の多様なニーズに合わせて働き方や社会規範意識が柔軟に変化しなければ日本を生活・就労の場として選ぶ人口が減っていく。内外に山積する課題をどう克服できるのか。様々な専門分野を横断して俯瞰する事で、それぞれの課題の基本的な構造と異なる分野の変化が相互に関連し合っている状況を学ぶとともに、国が直面する課題を自分事として捉え、日常の多忙の中でも内外の環境変化を注視していくことの必要性を認識する。公共政策に様々な立場の個人がどう関われるか、そのような個人の取り組みを支えるための仕組みについて考察する。</p>				